

浄土宗西山禅林寺派

潮音寺だより

<http://www.ne.jp/asahi/choonji/namo/> ナモの寺 検索 ▶
〒456-0034 名古屋市熱田区伝馬一丁目 10-11

第321号
平成22年7月

電話 052-671-4831

ファックス 052-671-4856

choonji@aichi.email.ne.jp



水彩画：松村憲一

遠い

記憶の中の

アルバムを繰れば

あどけなく笑う

ボクの後ろに

何時もいたのは

お父さん

泣きじゃくる

ボクを抱き

魔法の言葉で

涙を消してくれた

お母さん

經典に

「父に慈恩あり」

「母に悲恩あり」

また

「存亡共に」

孝行を致すべし」は

西山上人のお言葉

父母恩重經 (上)

先日、我が耳を疑うようなニュースが飛び込んできました。

中学一年だった次女らに「学校をぶっ壊してきな」などと破壊行為をそのかしたとして、警視庁少年事件課と町田署は、暴行行為法違反(教唆)の疑いで、飲食店従業員の女(37)を逮捕した。同課によると、女は「ついで格好を付けて威勢のいいことを言ってしまった。まさかあそこまでやるとは思わなかった」と容疑を認めている。

逮捕容疑は、通学先の市立中学校の教諭に対する不満を話していた次女(13)らに「学校がうざいならやればいいじゃん。私の代のときは消火器をまいたり窓ガラスを割ったりしていた」などと、けしかけたとしている。

(六月八日『産経ニュース』要約)

親子の関係、ひいては家族間のあり方は、時代により、倫理観、

あるいは国や地域によってもずいぶん違い、また、差があつて当然といえます。しかし、冒頭のような事例は論外でありましょう。学校に対して、自己中心で理不尽な要求をする親(モンスターペアレント)や、その子供(モンスターチルドレン)が、社会問題化してここ久しいですし、その他、躰けや道徳上の諸問題は、親子関係の歪み^{ひずみ}が、大きな原因の一つと考えられます。

その是正を考えるにあたって、かつての儒教的な家族制度が、あながち良いというわけではありませんが、『論語』の「故きを温ねて新しきを知る」という教訓に、今一度立ち返つてみることは、決して無駄なこととは言えますまい。

そんな観点から、仏説『父母恩

重經』を紐解いてみることにいたします。ただ、一般的に「仏説」

と冠しますが、サンスクリット語の原典はなく、中国で撰述された「偽經」ということになります。そんなわけで、学術的にはあまり重要視されてきませんでした。中国や日本において、大衆には広く流布されてきたという、特異な存在感を放つ經典です。また、二十世紀初めに発見された「敦煌文書」の中に、何点もの写本が含まれていたということで、その評価が再認識されています。

さて、その内容は、「如是我聞(かくの如く、われ聞けり)」で始まり、形式上は他の經典と変わりありませんが、教義云々といったむずかしいことは出てまいりません。では、王舎城の耆闍崛山において、多くの仏弟子の方々と共に、聴聞する

つもりでみてまいりましょう。

このとき世尊はすぐさま、法を説いて仰せられました。

「一切の善男子、善女人よ。父には慈しみの恩があり、母には自分を忘れてお育てくださった恩があります。そのわけは、人がこの世に生まれるのは、先の世からの業を原因として、父母を縁といたします。父がなければ生まれません。母がなければ育ちません。ここをもって、生気を父の胤にうけ、形を母の胎に宿します。この因縁がありますから、憐れみ深い母が子を思うことは、世の中で比べるものなく、その恩は形になる前からおよんでいます。」（訳：大巴賢充）

これは現代語訳したもので、書き下しでは「父に慈恩あり、母に悲恩あり」と先ず出てまいります。「慈悲」という言葉の持つ意味を、父と母に振り分けて語られています。

す。元来、「慈」はサンスクリット語のマイトリー（友情）にあたり、深い慈しみの心をさし、「悲」はカルナー（同情）にあたり、深い憐みの心をさします。また、生きとし生ける者に、幸福を与える（与樂）のが「慈」であり、不幸を抜き去る（抜苦）のが「悲」であるとされ、仏菩薩が、苦しむ衆生に對してたれる憐愍の情をいう場合にも使われ、「大慈大悲、觀世音菩薩」、「仏とは大慈悲心、これなり（『觀無量壽經』）」のような用例もあります。

確かに、「慈」と「悲」に区別を見いだそうとすれば、前述のようにはなるのですが、ほとんど同じ心情を表すもので、同格とみなしてもよいものと思われまます。父親は父としての、母親は母としての立ち位置があり、役割も異なる、子供に對してのアプローチの仕方や行動に違いは出てこようとも、我が子を思う気持ちは、父母共に変わりがあるうはずがありません。そこを押さえていた上で、「父に慈恩あり、母に悲恩あり」を噛みしめ、味わいただければと思います。

そして、「この因縁をもつての故に、（中略）その恩、未形に及べり」の言葉を、深く感じ取っていただきたいのです。自分という存在は、父母から生まれべくして生まれたのであり、生まれる以前から決まっていたことなのです。必然として、必要とされて生を受けたのです。それを、たまたま、偶然と考えたのでは、宗教も道徳も、何も良い結果は生まれません。「頼みもないのに…」などと嘯

くなぞ、もつての外であります。

◎書院しよいん

現在でこそ「書院造り」などと建築用語にしか残っていないことばだが、さて、「書院」とはいったい何かと問われると、いささか答えに窮してしまふ。

応接間と考える人がいるかもしれないが、これはあくまで鎌倉時代以降の武士の家での話。本来の書院とは、寺院における僧侶の学問所のこととて、仏書を読み、習い、講義などをする場を指した。やがて武家階級が禅風を好み、この書院を単に外見だけを写して建てたことにより、接客の場と解釈されるようになっただけの話である。

書院には「平書院ひらしよいん」と「附書院つかけしよいん」があるが、前者は床の間の脇に窓があるだけで床棚がない略式のもので、本来の書院は、窓と床棚がつい

ていなければならなかった。この棚は別名「書院床」と呼ばれる。飾り棚ではなく、あくまで書物を置く本箱の役割を果たしたものだ。

現在の応接間とは違って、書院の中はアカデミックなムードに満ちていたものと想像できる。

（『仏教のことば』早わかり事典）

雑記



▼父母恩重経

今号から、仏説『父母恩重経』のお話をさせていただきますが、より詳しくお知りになりたい方のために、小冊子を用意しました。ご希望の向きは、お申し出下さい。限定30冊。無料です。

▼お盆ご案内

- ・平和公園墓地 8月12日午前中
- ・潮音寺納骨堂 8月13日午前中

・盆施餓鬼会（本堂にて）

8月19日 午後1時30分より

・棚経

月参り時にお勤めさせていただきます。もし、ご希望日時がございましたら、お申し出願います。

▼セミ

梅雨に入って間もない頃の朝、庭掃除しておりましたら、セミの幼虫が、雨上がりの地面を歩いていました。不思議に思い、樹に留まらせましたが駄目でした。ならばと、あまり期待はできませんでしたが、地中に戻してやりました。しかし、やはりというか、翌々日死んでいました。

慌あわてん坊だったのか、何が悪かったのか……。頓生菩提

◆涼しげに喧けんそう噪よそに

眠る猫 沐魚